

第II章

前計画の評価

第1節 うららトス 21 プラン（第2期鳥栖市健康増進計画）の評価

第2期プランの最終評価は評価指標について平成27年度の目標値を基に行いました。（P57～59 参照）

全評価指標 85 項目のうち、アンケートにより評価した項目数は 36 項目でした。

	評価項目数	うちアンケートによる評価
乳幼児期	34 項目	3 項目
思春期	17 項目	11 項目
成人期	34 項目	22 項目
計	85 項目	36 項目

残りの 49 項目は、幼児健診、学校健診、特定健康診査等の実績で評価を行いました。

【アンケートの方法】

計画策定時と同様に、ライフステージごとにアンケート調査を実施しました。

調査期間：平成27年4月～6月

調査対象者と回収状況：配布数 1,784 回収数 1,219 （回収率 68.3%）

（単位 人）

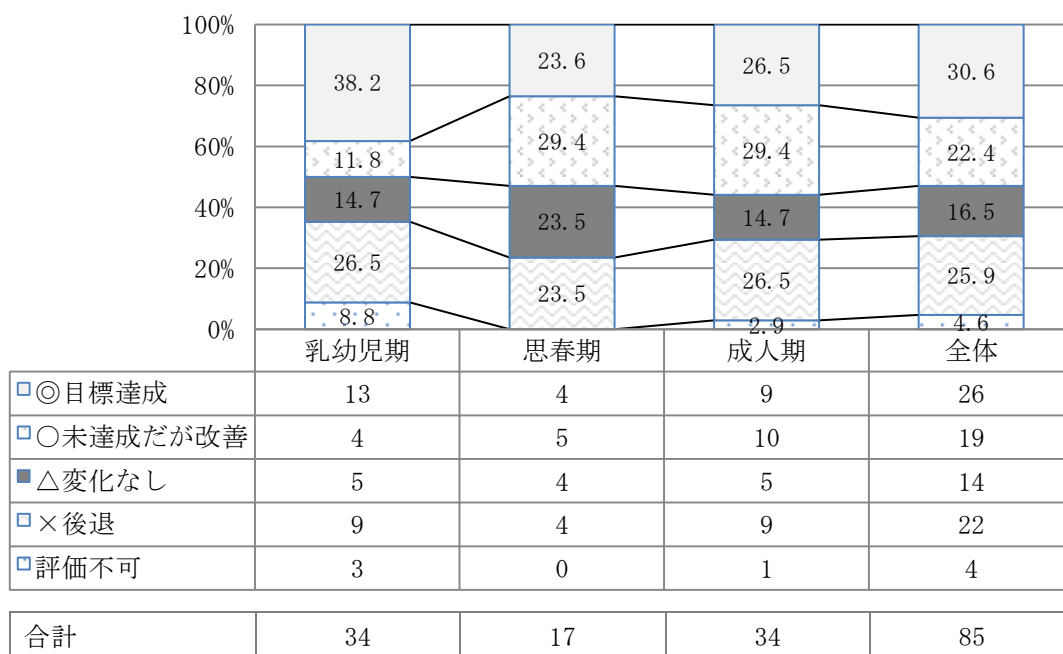
ライフステージ	対象者	方法	配布数	回収数
乳幼児期	1歳6か月児、3歳児 健診受診者	健診時回収	369	362
思春期	市内4中学校各学年1 クラス	学校より配布、 回収	415	405
成人期	30～79歳の市民	無作為抽出 郵送法	1,000	452

【評価の基準】

全評価指標 85 項目について、下記の基準で評価をしました。

記号	内 容
◎	目標を達成した
○	目標値には到達していないが、平成20年度の結果より改善した
△	平成22年度の結果とほぼ変わらない（3%以内の変化を含む）
×	平成22年度の結果より後退した
評価不可	平成27年度に現状値がないものや評価の把握方法が困難になったもの

【ライフステージ別最終評価の結果】



【考察】

改善が見られたもの(◎と○)の割合は51.8%、改善が見られなかったもの(△と×)の割合は43.5%でした。

領域毎にみると(P57～59「第V章 資料 うららトス 21 プラン(第2期鳥栖市健康増進計画)の最終評価の結果」参照)、大きく改善しているのが、乳幼児期のむし歯平均本数の減少・思春期のむし歯がない子どもの割合の増加です。年中児から始まるフッ化物洗口や、仕上げ磨きをする親の意識向上の効果と思われます。また、育児協力をする父親の割合が9割を超えており、市の乳幼児健診・教室でも父親の参加率が多い傾向にあります。しかし、核家族化や働く女性の増加などの社会背景から、家庭や地域で子育ての支援・見守りが重要となってきています。

思春期、成人期に共通しているのが、「こころ」の領域の改善率が低いことです。子どもも大人も悩みを相談できる人がいる人の割合が減少しており、身体面の健康だけでなく、精神面での健康も非常に重要になっています。また、健診結果を健康づくりに利用している人や特定保健指導を受けた人が減少していることから、健診を受けても、データを効果的に活用できず、生活習慣の改善等につながない可能性が考えられます。

【今後の方向性】

「健康日本21(第2次)」で示された目標項目について、個人の意識と行動の変容を支援するため、取り組む領域・分野別に区分し、鳥栖市の具体的な取り組みをまとめ、第3期うららトス21プランを推進します。

第2節 鳥栖市食育推進計画の評価

第2期鳥栖市食育推進計画の策定にあたって、第1期の平成22年度から平成27年度までの6年間の計画の評価を実施しました。(P60～61 参照) 評価にあたっては、下記の方法でアンケートを実施しました。

【アンケートの方法】

評価指標について、計画策定時と同様のアンケート調査を実施しました。

調査期間：平成27年5月～6月

調査対象者と回収状況：配布数 5,807 回収数 5,254 (回収率 90.5%)

(単位 人)

対象		配布数	回収数
市内保育所・幼稚園	年長児	773	685
	保護者	773	685
市内小学校 各学年1クラス	小学生	1,548	1,452
	保護者	1,548	1,376
市内中学校 各学年1クラス	中学生	415	395
	保護者	419	353
市内高等学校 2年生1クラス	高校生	123	122
	保護者	208	186
計		5,807	5,254

※市内保育所・幼稚園年長児については本人回答が困難なため、保護者に対する質問としました。

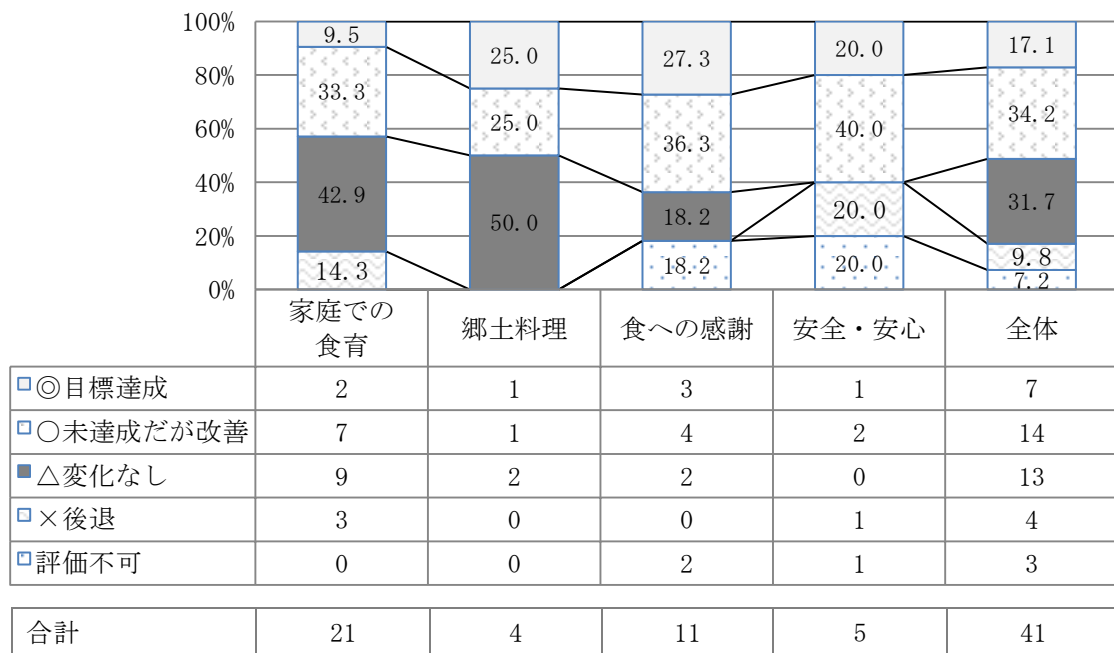
【評価の基準】

全評価指標41項目(No.1～21)について、下記の基準で評価をしました。

記号	内 容
◎	目標を達成した
○	目標値には到達していないが、平成20年度の結果より改善した
△	平成20年度の結果とほぼ変わらない(3%以内の変化を含む)
×	平成20年度の結果より後退した
評価不可	平成26年度に現状値がないものや評価の把握方法が困難になったもの

また、アンケート内容は、計画の目指す姿として掲げた「家庭での食育」、「郷土料理」、「食への感謝」、「安心・安全」の4つの柱にわけ、評価結果は次のとおりでした。

【4つの柱ごとの評価結果】



【考察】

改善が見られたもの(◎と○)の割合は51.2%、改善が見られなかったもの(△と×)の割合は41.5%でした。4つの柱毎に改善率を見ると(P60～61「第V章 資料 鳥栖市食育推進計画の最終評価の結果」参照)、改善が見られたものの割合が多かったのは食への感謝(63.6%)と家庭での食育(42.9%)でした。

食への感謝で目標を達成した評価指標は「保育所、幼稚園、小中学校で、子どもが農産物を栽培から収穫まで体験している割合」であり幼少期からの農産物を栽培する体験が各教育機関や関係各課および関係機関団体を通して定着しています。

また、家庭での食育では「むし歯がない子どもの割合」で小学生および中学生が目標を達成しており、今後も小学校、中学校でのフッ化物洗口の継続が必要です。

鳥栖市食育推進計画を推進するための年度別重点項目の中で「毎日朝食を食べる割合」では、目標達成した年代はなく、初年度調査に比べ改善したのは3歳児、中学生、高校生であり、その中でも伸び率が高かったのは高校生でした。

また、初年度調査に比べ後退したのは小学生であり、学校での取り組みと深くかかわることから「鳥栖市学校給食基本理念・基本計画」での取り組みと連携しながら取り組むことが必要です。

【今後の方向性】

今までうららトス21プランと別に策定していた「鳥栖市食育推進計画」とは健康的な食生活の実践という同じ方向を目指していることと、健康と食育を総合的かつ計画的に進める必要があることから、2つの計画を1つにまとめることとしました。今後は、「健康日本21(第2次)」や、国・佐賀県の食育推進計画等で示された目標項目について、個人の意識と行動の変容を支援するため、取り組む領域・分野別に区分し、鳥栖市の具体的な取り組みをまとめ、第3期うららトス21プランを推進します。